

<市民文教委員会：特別付託案件に関する成果と課題>

1 飯塚市の学力向上施策

(1) 飯塚市が目指す教育

「未来の飯塚市を担うかしこく・やさしい・たくましい子どもの育成」に向け、義務教育9カ年を通して、21世紀型学力の三つの要素である基礎力を主に前期で、思考力を主に中期でそして実践力を主に後期で育成し、未来の社会を生き抜くために必要なコミュニケーション・コラボレーション・イノベーションの三つの能力の育成を図る。

(2) 飯塚市の学力向上施策

「多層指導モデル MIM」により言語活動の基礎を築き、その後に「徹底反復学習」により知識の習得を強化し、協調学習により習得した知識の活用力の育成を図るとともに、ICT機器を活用する等し、効果的に教育活動を進めることが、飯塚市の学力向上施策における基本的な考え方である。

2 飯塚市の学力向上施策の具体的内容

(1) 多層指導モデル MIM

「多層指導モデル MIM」とは、通常の学級において異なる学力層の子どもたちの状況に応じた指導・支援モデルのことである。

小学校低学年において、「読む力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもが理解しやすいよう配慮した授業、指導方法の工夫改善を行った。

学校教育課では、主に1年生担任を対象として年間3回の指導者研修、地区ごとのグループ研修等を実施し、各学校における取組の推進を図った。

(2) 徹底反復学習

「徹底反復学習」とは、児童生徒の基礎基本の確実な定着と教員の指導力の向上等のために、朝の学習、補充学習及び家庭学習等において百ます計算、音読、速読、漢字等を繰り返し行う学習のことである。

国語、算数・数学を中心に、小学校は「陰山メソッド」、中学校は「小河式プリント」を活用し家庭と連携して繰り返し徹底反復学習を行った。

学校教育課では、学力調査結果や学力向上推進体制、学校規模等をもとに「学力向上モデル校」（小学校2校、中学校2校）を選定し取組を進めてきた。各モデル校において学力向上アドバイザーを招聘した学力向上研修会を行い、学力向上の取組内容と推進体制等を提案し、指導助言を受けるというシステムにより指導の在り方の改善等を図った。また、「学力向上モデル校」以外の学校については、学力向上コーディネーターを中心に研修会に参加し、研修で学んだ内容を自校で還元し、学力向上の取組内容と推進体制等を見直す機会とした。

(3) 協調学習

「協調学習」とは、主に活用力の育成を目指しある学習課題に対し一人一人が自分の考えをもち、学習者同士の対話をとおして新たな気づきを導き出し、理解を深める学習のことである。

学校教育課では、協調学習の更なる充実・発展を実現するために、飯塚市立小・中学校協調学習推進事業として整理し、次のような事業を実施した。

- 市内小・中学校等において実施される研修会や授業研究での指導助言を行う、協調学習の指導者養成
- 市内全小中学校における協調学習の研究授業の実施
- 飯塚市教育委員会主催の協調学習に関わる研修会等の実施

(4) ICT 教育

ICT 教育とは、IT 化やグローバル化といったこれからの社会の変化に対応できる人材育成を図るため、ICT 機器を活用した情報処理やプレゼンテーションなどの能力を育成する教育のことである。

学校教育課では、昨年度から市内の小・中学校 1 校ずつをモデル校として指定し、ICT 機器を活用した教育活動の在り方について実証的に研究し、そこで明らかになった指導方法やその成果などを研究発表会や研究報告書を通じてその他の小・中学校に広げることができた。

具体的には、タブレット端末や電子黒板を使い、動画や画像を教材とした一斉学習やタブレット端末に記入された児童生徒一人一人の意見を黒板上で交流し合う協調学習などの ICT 教育に取り組んできた。

ICT 機器については、研究指定校への整備に加え、平成 28 年度は県の補助事業を活用し、飯塚市全小中学校に電子黒板一式（電子黒板と周辺機器）を整備した。

○電子黒板一式

(単位 台)

飯塚小学校		飯塚東小学校		幸袋小学校		庄内中学校		他小学校	他中学校	合計	
H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H28	H28	H27	H28
								(各学校1)	(各学校1)		
2	6	1	9	1	9	2	11	19	9	6	63

○タブレット

(単位 台)

飯塚小学校		飯塚東小学校		幸袋小学校		庄内中学校		合計	
H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
41	0	7	34	7	34	41	0	96	68

(5) オンライン英会話

オンライン英会話とは、小学校外国語活動の授業においてオンラインによるネイティブ講師とのマンツーマンでの英会話レッスンのことである。具体的には、フィリピンのセブ島とオンラインでつなぎ、資格等を持った現地の講師からマンツーマンレッスンを受け、児童の「聞く」「話す」を中心とした英語力の向上を目指している。

今年度は、飯塚市立小学校 6 年生を対象に、毎月 2 回程度の授業を実施した。また、英語の教科化に対応できるシステム整備と教員養成を同時に行った。

3 成果と課題

(1) 成果

① 学力テストの結果

これまでの学力向上施策の実施により、表1, 2, 3のとおり各種調査において成績の上昇が見られる。

表1 小学校全国標準学力検査NRT(指数)

全国標準学力検査NRT(指数)	総合(国・算) ※全国平均を100とする
25年度	106.1
26年度	108.4
27年度	110.0
28年度	111.0

表2 小学校全国標準学力検査CRT(指数)

全国標準学力検査CRT(指数)	総合(国・算) ※全国平均を100とする
25年度	102.4
26年度	103.4
27年度	104.5

表3 中学校標準学力分析検査(指数)

標準学力分析検査(指数)	総合(国・数) ※県平均を100とする
25年度	99.4
26年度	99.7
27年度	100.8
28年度	101.3

② ICT教育の成果

平成27年度の小学校のモデル校児童に対するアンケート結果では、90%以上の児童が電子黒板やタブレットを使った授業は楽しく互いに意見を交流したり、学習を振り返ったりすることが容易になると回答している。また、中学校のモデル校生徒の100%が「ICTを活用した授業は分かりやすい」と回答しており、97%が今後も同様の学習を継続してほしいと回答している。次にICT教育に対して、小学校のモデル校教職員は、ICTを活用することによって、児童の学習への興味・関心が高まり、児童が交流し合う機会が増えたと述べている。また、協働で課題解決の方法を考えることによって、コミュニケーション力が高まったと述べている。さらに、4月と12月に実施した「授業中にICTを活用し、効果的な資料作成ができますか」というアンケート調査では、「できる」と答えた教職員の割合が42%から95%へと高まり、教職員の意欲や能力が高まったことがわかった。中学校のモデル校教職員も電子黒板やタブレットを実際に活用することによって、その良さを実感し、ICT機器を積極的に授業に活用しようとする意欲が高まっていることがわかった。

平成28年度は、各モデル校に配置する電子黒板を増やしたことにより、電子黒板を活用した授業を各クラスで日常的に活用できるようになった。また、小学校のモデル校における特別支援学級において、二つの学校間において電子黒板を用いた遠隔授業による交流発表会を行うなどの取組を実施することができた。

③ オンライン英会話の成果

平成27年度はモデル校として飯塚小学校5・6年生を対象に、平成28年度は市立の全小学校6年生を対象にオンライン英会話を実施した。

モデル校であった飯塚小学校で、オンライン英会話実施後に行ったアンケートの結果では、英語の授業を楽しんでいると感じたり、英語で積極的にコミュニケーションをとりたいと感じたりしている児童が増加したことが分かった。特に、「外国の人が話しかけてきたらどうしますか」という質問に対し、オンライン英会話を実施する前は「英語で受け答えをする」

と答えた児童は38%であったが、オンライン英会話実施後は75%と大きく増加していた。

平成28年度は、オンライン英会話の実施前（9月）・実施後（3月）に、英語の技能に関する各事項に児童自身が「できる」「できない」で答える「Can-Doリスト」形式のアンケート、及び抽出校2校による英検 Jr. 学校版の技能試験を実施することによって、オンライン英会話による英語の技能の向上について、効果検証を行う予定である。

(2) 課題

① 学力テストの結果から

これまでの学力向上施策の実施により、一定の成果が上がっているが、今後、21世紀を生き抜く力の更なる育成を目指し、学校教育課としては、以下のような取組をさらに推進していく必要があると考える。

- 21世紀型学力の中核である思考力を育成する協調学習の更なる充実・発展のために、市内全小中学校において協調学習の研究授業を実施し、その成果を県下及び全国に発信する。
- 各種学力調査（NRT、CRT、フクト等）の結果等をもとに指定した「学力向上モデル校」の校長及び学力向上担当者等が参加して、今後の学力向上の取組改善に向けて飯塚市教育委員会及び学力向上アドバイザーからの指導助言を受ける「飯塚市学力向上検証委員会」を実施する。
- 学力向上プランについて具体的な場面における効果等を聞き取り、振興・改善策等について、教育長、教育部長等と懇談を行う「学力向上プランヒアリング」を実施する。

② ICT教育の課題

ICT機器を積極的に授業に活用しようとする教職員の意欲は高まっている。

今後、ICT機器を効率的に活用した授業を展開していくためには、教職員のICT活用の能力を更に向上が必要である。そのために以下のような取組を行う必要があると考える。

- 教職員に対する研修を充実させる。
- 各学校でのICT活用リーダーを育成する必要がある。

③ オンライン英会話の課題

モデル校において実施したアンケートの結果では、英語の授業を楽しんでいると感じたり、英語で積極的にコミュニケーションをとりたいと感じたりしている児童が増加している。

このことを更に発展させていくためには、小学校外国語に関わる連絡会や研修会をさらに充実していく必要がある。また、小学校で高められた英語に対する関心・意欲や技能を、中学校で伸ばしていく体制づくりも必要である。

立岩公民館の移転建替地について

1. 所在地
飯塚市新立岩 1527 番 2
2. 面積（実測）
2,279.01 m²
3. 旧所有者
日本たばこ産業株式会社
4. 売買契約締結年月日
平成 28 年 12 月 19 日
5. 売買契約金額
79,000,000 円 （m²単価：約 34,665 円）
6. 登記完了年月日
平成 28 年 12 月 22 日

